

大君と
御園生の
朝の光に
皇后陛下

母宮の愛でし
白樺冴ゆる

— 平成三十一年歌会始お題「光」 —

天皇皇后両陛下が平成の時代をお
過ごしになられた東宮御所のお庭
には、上皇上皇后両陛下が昭和時
代をお過ごしになられた際に、慈
しまれ大切にお育てになられた、
上皇后陛下のお印の白樺の木立が
あります。
この御歌はそのような白樺の木々
が、朝の光をうけて白く輝いてい
る様子を、この美しいお庭の景色
を御覧になりながら二十数年間過
ごしてこられたことへの感謝のお
気持ちを含めて、お詠みになられ
たものです。

神道知識への誘ひ「七五三」

七五三の起源は平安時代の公家の習
慣に遡ります。当時は幼児の生存率
が低く、特定の年まで命を繋ぎとめ
てくださったことを神様・御先祖様
へ感謝し家族で祝う儀式として行わ
れ、その後武家社会にも広がってい
きました。七五三とは三つの儀式の
総称で、古くは「髪置」「袴着」「帯解
(紐解)」といいました。
髪置は三歳男女児がもう赤ん坊では
ないという意味から、今まで剃って
いた髪を伸ばし始める祝儀。袴着は
五歳男児が初めて袴を着ける祝儀。
帯解は七歳女児が、着物の付け紐を

帯に替える祝儀です。五代將軍徳川
綱吉の子、徳松の健康を祝う儀式を
天和元年十一月十五日に行ったこと
にあやかり庶民もその日にお祝いす
るようになったといわれています。
現在では、十一月十五日に神社へ参
拜し、神様に子供の成長と健康を感
謝し、今後の更なるご加護を祈願す
る儀礼となりました。尚、本来は数
え年で祝いますが、最近では満年齢
で祝う割合が高くなり、参拝の日取
りも十一月十五日に拘らず、その前
後の都合の良い日に参拝する傾向が
強くなってきています。

